

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

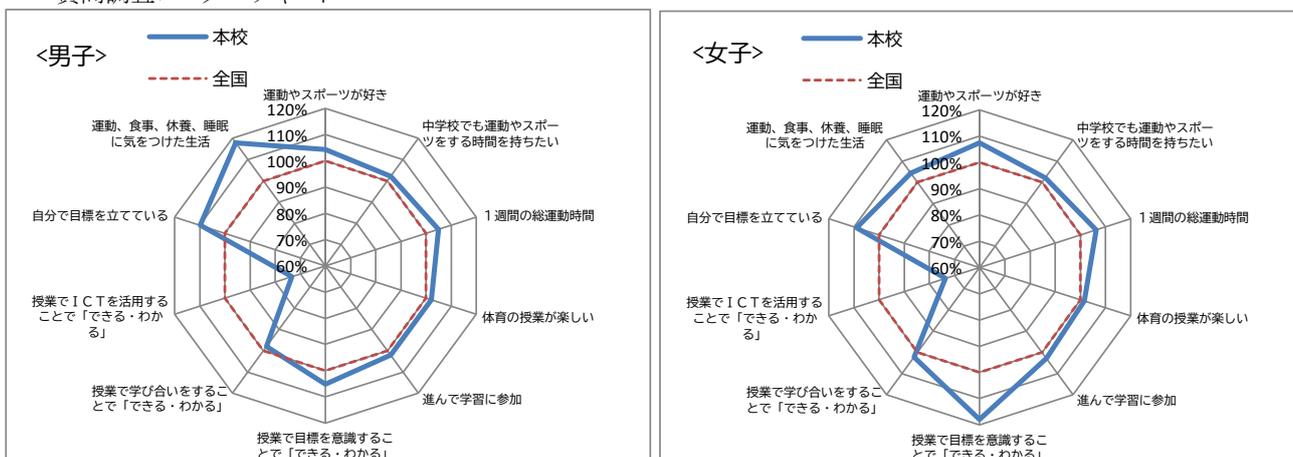
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
本市	16.16	19.89	34.46	41.16	50.80	9.47	152.45	22.02	54.09
本校全国平均以上の種目		○		○	○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
本市	15.73	18.70	38.63	39.23	39.35	9.75	144.11	13.51	54.98
本校全国平均以上の種目	○				○		○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査レーダーチャート



質問調査の結果分析

○運動能力に関する調査の結果、男子は、7種目女子も2種目が全国平均を上回る結果となった。「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対し、9割の児童が肯定的な回答をしている。「体育の授業が楽しいですか」という質問に対しても約9割の児童が肯定的な回答をしている。体を動かすことの楽しさや課題を解決する喜びを児童が味わえるよう、グループ学習等を取り入れた授業を引き続き実践し、
●運動習慣や生活習慣等に関する質問調査の結果、授業の際にICTを活用したり、目標をもって取り組んだりするなどして、目標とする動きについて「できる」・「わかる」と感じる児童が全国平均を下回っていた。今後は、マット運動や、跳び箱の様子を録画し合い、フォームのチェックを行ったり、球技のゲームにおいて、作戦等を共有し、分析したりする場面等でICTを積極的に活用していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・体育科におけるICTの活用を推進していくために、ICTを効果的に活用するなどを共有する研修を計画的に行う。□
・教員や技能の優れた児童の動画(お手本)と自分の動画を画面分割で比べ、スロー再生。接地のタイミングや重心の移動など、言葉では伝わりにくい「コツ」を視覚的に理解させるためにICTを活用する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○体育科学習で行う種目や児童の実態に応じて、北九州市体力向上プログラム(第4版)の準備運動等を取り入れ、児童の体力・技能の向上やけがの防止に努める。